

■ (公財)大阪市博物館協会 平成26年度外部評価委員会 評価シート

大阪市立自然史博物館	担当委員名	梅原 徹
1. 「措置状況」について		
【長居植物園との連携】館の強みの認識で、隣接する長居植物園との連携を求めたが、経営母体が異なる施設であるために、現状では直接の措置は困難との回答は理解できる。		
【施設の老朽化対策・展示リニューアル】館の弱みの認識で、予算を確保し、施設の老朽化対策と展示リニューアルを進めることを求めたが、館側からは必要な施設・設備改修を順位をつけて、博物館協会が大阪市に予算要求しているが、現状では直接の措置は困難との回答は理解できる。		
【スタッフの拡充と待遇改善】今後の課題で、スタッフの拡充と待遇改善は欠かせないとしたが、協会契約職員が1人採用されたのは最低限の措置として評価できる。		
【外部資金】科研費9件を含む外部資金の獲得実績は高く評価できる。		
【ICOM加盟申請】ICOM(国際博物館会議)加盟申請を新しい積極的な取組みとして評価できる。		
2. 【自己評価シート】《改訂版》について		
【館の使命と重点目標】館の使命を認識し、指定期間中の重点目標は達成されていると考える。とくに他機関との連携を進め、ノウハウの交流に努めるという目標に対して、平成26年には3回目となる「教員のための博物館の日」を実施し、これが大阪歴史博物館でも初めて実施されたことにつながったことは評価できる。		
【館の未来像】ICOMの加盟申請を契機に、大局的な観点から館の未来像について議論を開始したことは大いに評価できる。財政難で経営環境が悪化する時代に、博物館がどうあるべきか、多角的に検討されることを期待する。		
【改修】平成25年度に本館の施設設備の改修が行われたことは評価できるが、改修の範囲を展示室に広げる時期になっている。本館の展示室の多くは大規模な更新が必要な状況と考えられるが、これは指定管理者の守備範囲を超える。		
【広報】入館者数、事業参加者数に波がある。若者の自然離れ、無関心は深刻なので、自然史に興味のない人たちにもまずは来館・参加してもらうために、さらなる工夫や広報を望みたい。		
【寄託標本】寄託標本の受け入れの増加は評価できる。		
【自己収入額】自己収入額の増加は評価できる。		
3. これからのあり方についてのご意見		
①運営の基本事項・全般的な事項に関するもの		
【連携・協力】地域や多様な組織との連携・協力ができるネットワーク力、広報・情報発信力、多様な事業が展開ができる力は、全国有数の高い水準にある。自然史博物館の事業の多くは、博物館界にこれからの博物館のあり方を提示している。今後も、高いレベルでの創意工夫を期待する。		
【教育普及活動】友の会を教育普及活動の中心に据える方式はユニークで、長年の活動実績がその効果を実証しているが、より利用者の裾野を拡大する取組みにも、さらなる努力を傾けられたい。その意味で「教員のための博物館の日」は今後も続けていただきたい。また、市内各地へのアウトリーチにもいっそう取組んでいただきたい。		
4. その他(設置者への要望等)		
【長居植物園との連携】隣接する長居植物園との連携に関して、現状では経営母体が異なるので、直接の措置は困難との回答が得られたが、本来、こうした切り分けが望ましいか否かについて、大阪市としての考え方の再整理が必要のように思われる。		
【施設の老朽化対策・展示リニューアル】施設の老朽化対策と展示リニューアルに対する現場からの要求に対し、大阪市としての回答や、長期的な展望は示されているのかが不明確である。今後の経営母体に対する議論が進んでいるのかかわらず、設置者として的大阪市がとるべき方向性を示すべきである。		

【スタッフの拡充と待遇改善】スタッフの拡充と待遇改善は欠かせない。現行制度の下でのやむをえない措置としての期限付き職員の採用は理解するが、少なくとも大阪市はこうした期限付き学芸員の常勤化プロセスを示すべきである。長期的展望をもって研究を進めるべき学芸員に対して、先の見えないこうした待遇を続けることは、有能な人材を採用できなかつたり、採用できても短期間に流出を招くことにつながる可能性が高い。